

■ USBメモリへのパスワード設定（暗号化）について

USBメモリは手軽で便利な反面、紛失時は重大な情報漏洩事故に発展する可能性があります。USBメモリを利用する場合は、自身の責任で管理（施錠保管、台帳管理、ストラップ取り付け、パスワード設定等）をお願いします。

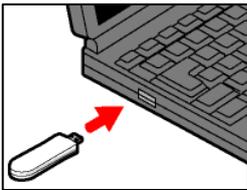
本資料では、Windowsの標準機能である「BitLocker」を使用して、USBメモリにパスワードを設定する方法を説明します。紛失時の情報漏洩リスク軽減のため、USBメモリにはパスワードの設定をお願いします。

お使いのWindowsパソコンが、「BitLocker」をサポートしないエディション(homeなど)の場合は、あらかじめ、教卓のパソコンでUSBメモリにパスワードを設定してからお使いください。



1. USBメモリへのパスワード設定方法

①パスワードを設定したいUSBメモリを、パソコンに挿入します。

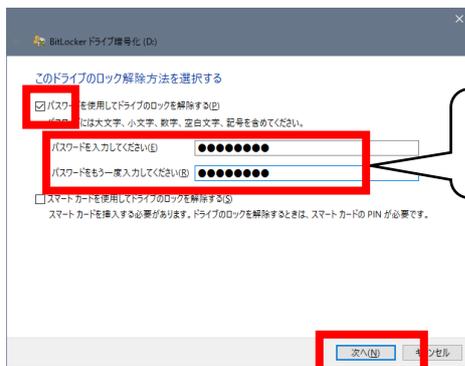


②アイコン「PC」を開き、USBメモリのアイコンを右クリックします。



③[BitLockerを有効にする]を選択します。

④「このドライブのロック方法を選択する」画面が表示されたら、設定したいパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。

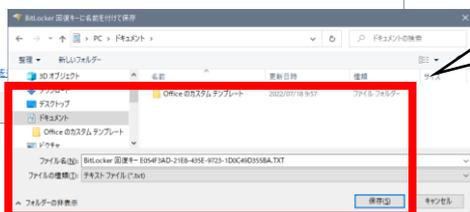


**パスワードは英数文字を含む
8文字以上を推奨します。**

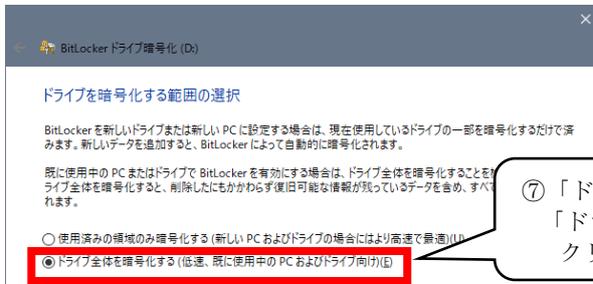
⑤「回復キーのバックアップ方法を指定してください」と表示されたら、[ファイルに保存する]を選択します。



⑥任意のフォルダに回復キーを保存してください。
(パスワードを設定中のUSBメモリ以外の場所に)



**回復キーはパスワードを忘れた時に、
USBメモリのロックを解除するためのものです。**



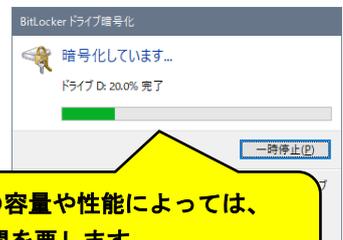
⑦ 「ドライブを暗号化する範囲の選択」画面が表示されたら、「ドライブ全体を暗号化する」を選択し、[次へ]をクリックします。



⑧ 「使用する暗号化モードを選ぶ」画面が表示されたら、「互換モード」を選択して、[次へ]をクリックします。



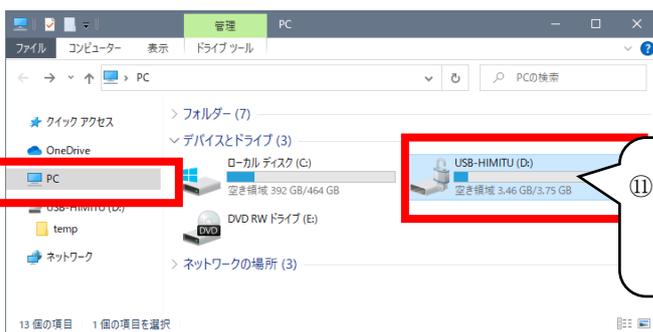
⑨ 注意事項を確認のうえ、「暗号化の開始」をクリックします。



USBメモリの容量や性能によっては、暗号化に時間を要します。
(例：3GB 使用中の USB メモリで約 15 分)



⑩ 「暗号化が完了しました」と表示されたら [閉じる] をクリックして画面を閉じます。

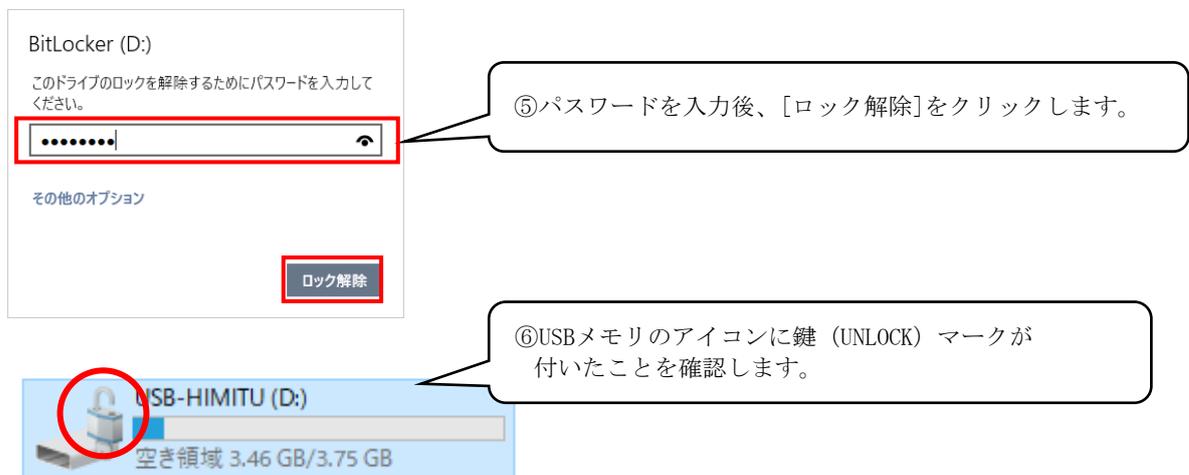
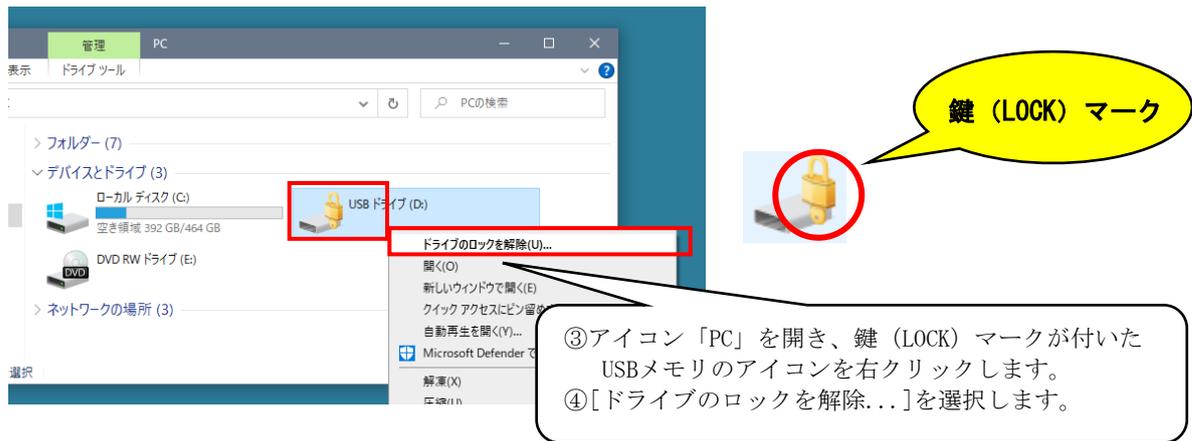
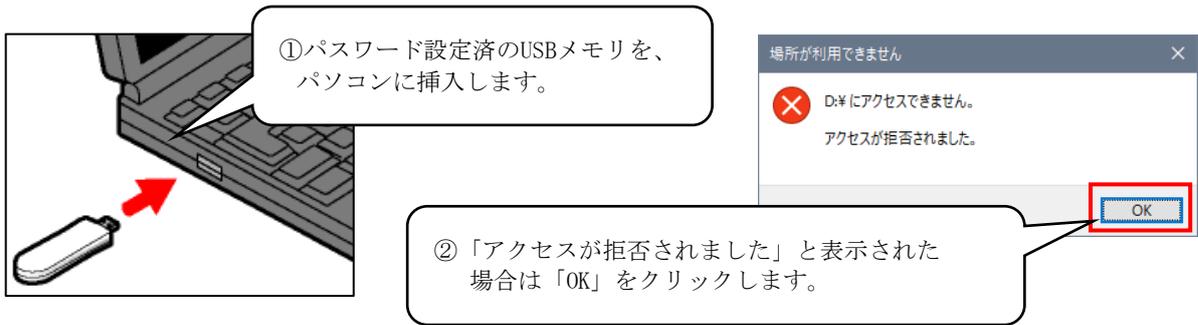


⑪ アイコン「PC」を開き、以下を確認します。
・ 鍵 (UNLOCK) マークが付いたこと
・ 元のファイルが残っていること

以上でパスワード設定は終了です。
パスワード設定済の USB メモリをパソコンから取り外すと自動的にロックされます。
取り外し操作は、従来と同じです。

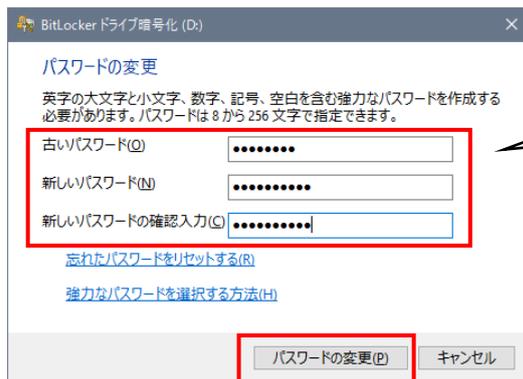
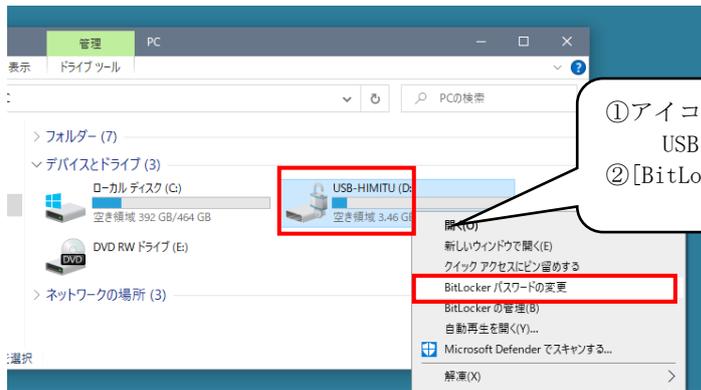


2. パスワード設定済のUSBメモリの使用方法



ロックが解除されると、アクセス（参照・追加・更新・削除）が可能です。

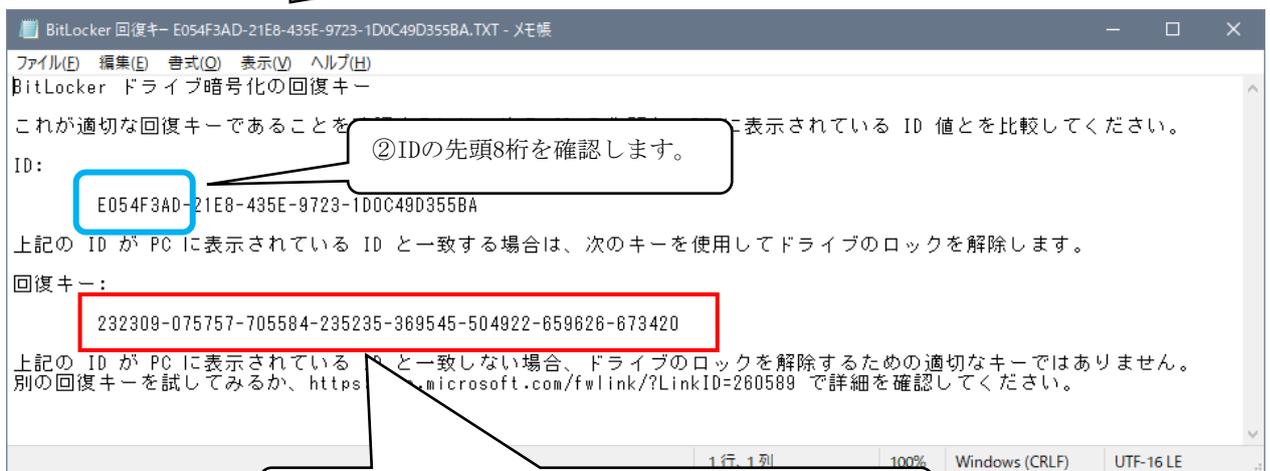
3. USBメモリに設定したパスワードの変更方法



4. パスワードを忘れた時の対処方法

パスワードを忘れてしまったUSBメモリのロックは、回復キーの値を用いて解除できます。解除できたら、すみやかにパスワードを再設定してください。

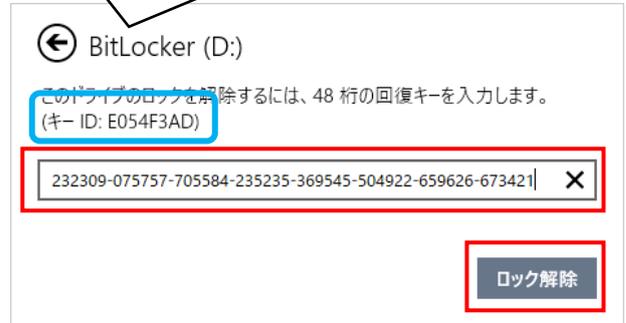
①パスワードを設定した時に保存しておいた回復キーのファイルをメモ帳で開きます。



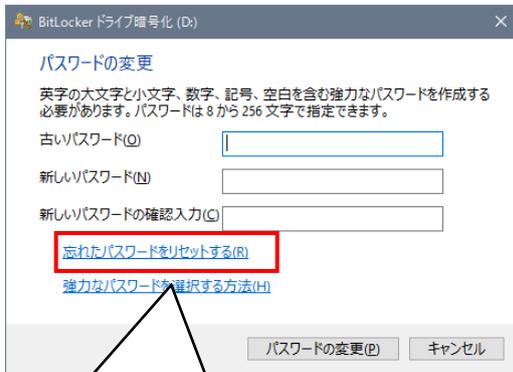
④ ロック解除のパスワード入力画面で「その他のオプション」>「回復キーを入力する」の順でクリックします。



⑤ 上記②で確認した8桁の値とキーIDが同じであれば、回復キーの値をクリップボードから貼付け、[ロック解除]をクリックします。



ロック解除できたら、以下の操作ですみやかに新しいパスワードに変更しておきましょう。



⑥ パスワード変更画面から「忘れてパスワードをリセットする」をクリックします。



⑦ 新しいパスワードを設定し、[完了]をクリックします。

<注意事項>

- ・ ロック解除ができなくなったUSBメモリを再使用する場合は、USBメモリをフォーマットしてください。（ファイルはすべて消えます）
- ・ パスワード設定済のUSBメモリをフォーマットすると、暗号化（BitLocker）が解除されてしまいます。再度パスワード設定をおこなってください。その場合は、回復キーの値が変わりますので、回復キーも再取得してください。
- ・ ロック解除ができなくなった場合や、USBメモリが壊れた場合に備え、重要なファイルは他のUSBメモリなどにバックアップを残すようにしてください。



以上